夕刊
磐城新聞
五月一日發行
(日曜祭日翌日休刊)
定價 一ヶ月金六拾錢 郵送料金五拾錢
廣告料金 (磐城郡内)一行十二字詰一行金九拾錢 (磐城郡以外)一行金一圓
編輯兼印刷人 大橋忠一
發行所 磐城新聞社
磐城郡平町大字平字新町十九
(ライオン歯磨ノ隣)
電話五百十二番
振替口座東京六百十二番

# 晩霞老の歌

島田忠夫

下

○亡きタマが服み遺したる藥をも見るが愛しとて薬てさせにけり

○この邊りとの春猫の聲聞かずタマの如みな寂かも服みし

○毒服まむいとまもなくて主人共に去りし隣りのブチをことはぐ

○二たびを飼へとし人等すすむれど亦毒服まむ猫を見堪をじ

□

愛猫の死を歌にして、どことなく悲哀の内にも、よつくらとした、ゆとりが現はれてゐる。先にも書いたやうに、忙中閑ありの、本兎莊の生活が見ゆ、枯淡にして、迫るものがある。これは新しい歌を作る若い人々も認めるに違ひない、ある尊い存在でもある

一首々々に就いて詳述はしない。この一聯から受ける感銘を賞でたい

□

私の個人誌『田園』にも晩霞先生のお歌が頂けることになつてゐる。創刊號二千部足らずの小誌『田園』であるが、晩霞先生のやうな郷土歌人の作品を頂ければ、光彩を添へるに違ひないと、深く欲んで待望してゐる

□

けふ、晩霞先生から、たよりで(磐女校の新築講堂のエハガキであつた)

『俗務多端、作歌に耽るなどの時間もなきに閉口に候。滿開の櫻見物も公園の池を一周したのみで歸つて來る始末に有之候』

などとあつたが、花を觀られるだけの風流三昧にはやはりお羨しいと申度い

□

私はこの文を投函して、信洲野澤温泉へ赴く。野澤温泉の常盤屋旅館主富井與老のあつせんで、野澤小唄を刊行以來しばらく其方面から紹介してゐた著者が久しぶりで平町の人物四十七名を俎上に上した四六倍判二十數頁のパンフレット題して『明日の平市が待望する人物を描く』穿鑿に過ぎず淺薄に失せず、而も著者一流の新鮮なる用語に些の腐敗もなく、慾を云へば總花的の處はあるが蓋し地方に於ける此種出版物として免れ難き處か。隨つて篇中の人物が溢美過褒の挨拶物的文字迄全嘲みにすると一寸自己評價の照準を誤る事なしとしない(非賣品)

△國民法律五月號　例により通俗的法律記事滿載(一部金十五錢、東京市芝區二本榎一ノ四七其社)

△『風土記』編纂の勅令一月二日下る(和銅六)△幕府五月一日五百石積以上の造船を制限(寛永一五)△我國郵便貯金の始(明治八)△警視廳騎々暴力團狩り開始(昭和一〇)

# 雜詠

森里子

成田山

イめば春の聲あり御神域
神苑や池に花散る失塗り橋
瀧不動崖に櫻の咲きにけり
講中の旗ひらめくや春の山
宗吾堂休みの夜や辛夷咲く

阿迦井嶽

温泉の常盤屋旅館主富井與老のあつせんで、野澤小唄を刊行以來しばらく其方面から紹介してゐた著者が久しぶりで平町の人物四十七名を俎上に上した四六倍判二十數頁のパンフレット題して『明日の平市が待望する人物を描く』穿鑿に過ぎず淺薄に失せず、而も著者一流の新鮮なる用語に些の腐敗もなく、慾を云へば總花的の處はあるが蓋し地方に於ける此種出版物として免れ難き處か。隨つて篇中の人物が溢美過褒の挨拶物的文字迄全嘲みにすると一寸自己評價の照準を誤る事なしとしない(非賣品)

# 此の家

三木和泉

その愁しみは
いはむとす
私の織き掌
憩ひなき
街の日、愚み
靜かなる
生活。うつろ
木目、新し
此の家
私、一人の

# 愛よ たゞよへ

新刊紹介

## 山田綠雨の近業

人物評を發刊

五年正月『磐城人物一面觀』を刊行以來しばらく其方面から紹介してゐた著者が久し振りで平町の人物四十七名を俎上に上した四六倍判二十數頁のパンフレット題して『明日の平市が待望する人物を描く』穿鑿に過ぎず淺薄に失せず、而も著者一流の新鮮なる用語に些の腐敗もなく、慾を云へば總花的の處はあるが蓋し地方に於ける此種出版物として免れ難き處か。隨つて篇中の人物が溢美過褒の挨拶物的文字迄全嘲みにすると一寸自己評價の照準を誤る事なしとしない(非賣品)

# 小說

## 高橋是清

(2)

松浦泉三郎作

佐々木今朝吉畫

春風の唄　(二)

川村庄右衛門守房は、探丹と號し幕府の御同朋頭支配繪師として、寡ら、江戸城本丸の御屏風の御用を勤めてゐた

文化五年の出生で、繪師とは思へない、堂々たる恰幅を備へてゐた。氣象濶達風格雄偉、而も自ら持する謙抑にして賊實、神佛に對する尊崇の念篤く、と傳へられ、文久二年には、精勤の賞として、その身一代御扶持方三人扶持に取上げられた程で、幕府の覺えもめでたかつた。

屋敷は、芝露月町にあつた。元雲州不昧公の出入商人として、豪奢を極めた、數寄屋河岸伏見屋甚兵衛の屋敷を、そのまゝ買取つて建てたものだけに、建築その他に數寄をこらした住居だつた

別けても庄右衛門の自慢にしてゐたのは、二階座敷の床板で、これは、長さ一間、幅二尺五寸餘、厚さ二寸餘の一枚板で、評判のものだつた

暮らし向きも無論豐かだつた

庄右衛門の最初の妻志津は、長女文子を殘して、天保九年廿七歳の若さで死んだ。その後文子が緣づいてから、後妻として迎へられたのが時子で、四男二女をもつた。

時子は、鷹邊味のある、麗い調子で話す癖があつた

『扨は何ぞ重大な用件でもあつて參つたかな。聞くぞいづれにもせよ、其處を閉めて、ズツと入れ』

おきんは決心して、言はれた通りにした

『書哉!そこで用向きは?』

『あの……』

言て憂えなかつた、大きな悲みが、奔騰する波のやうに、胸下へ迫つて、溢れやうとする涙が兩眼を盲目にした。どうしても顏が擧げられなかつた

『私、お暇を、戴きたう、存じまして……』

庄右衛門は吃驚した面持ちで

『暇を與れツーン意外だの……讓めた。おきん、男でも出來たか』

平氣でかう言つてのけた庄右衛門の言葉に、おきんは思はず、聲をあげて、泣き伏してしまつた

『はい』

滑り入るやうな聲だつた

『開けばよいぞ。入れ』

『はい』

『開けぬか』

『は……』

障子が開いて、若い女のかぐわしい體臭が、庄右衛門の鼻を衝いた。おきんは眞赤になつて、敷居際に蹲踞つてゐた。丸々と肉付きのいゝ肩のあたりが、微に慄へてゐるのにも、而し、庄右衛門は氣付かなかつた

『何ぞ用か?』

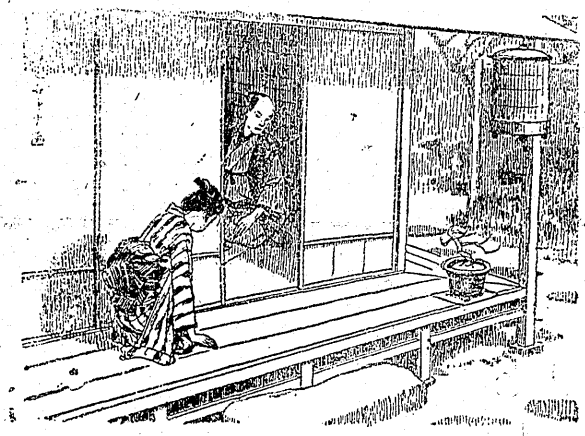
『……』

『そこを閉めて入れ』

『……』

『妙だぞ』用事あつて參つて居ながら、敷居際で無言の行とは解せぬの』

庄右衛門は、誰に對して



# 田子の浦から清見潟まで

清水八峰

一

昔ながらの東海道は、僅かに枯殘つた松並木に偲ぶ許りとなつた。遠くは十六夜日記、東關紀行、降つて

所圖繪等に稱へられ今面影は、汽車自動車の世の中となつては末世なりと諦らめるの外ない

されど陸栗毛に鞭打たむは多少の收穫なきにもあず一木一草の末に昔間はらむ程には、眼袋肥やさむよすがもあらむかと田子の浦邊なる吉原から清見潟に枕める興津まで健脚に信頼することゝなつた

同行は誘はれて厭やと言つたことのない程に歩るくことの嗜きな吉原町文學堂書店主人柴田氏を始めとし、何れも徒歩趣味を解する役場の波多野、芝田、山本氏に、銀行の渡邊氏と芝田少年の六人。團長は例によつて年長の私。聞くは化の便り、觀るは霞の奥、雲は幻の多い春三月二十二日、前日の皇靈祭は雨で春眠を貪が左に笑つてゐる。さればたが……日本晴の上天氣にや名勝左富士の杭が路傍を照らされながら、何れも足仕度完全な昭和の股旅者はない。道路の屈曲に因る先達に雁行になつたり、敬ステッキは握太、團長を富士遠で觀た靈峰が東海道中でも優秀のため一層世に宣傳されたものと思ふ

富士は右に仰ぐものと極つてゐるのに、是は又何としたことか、白扇高く左に靡く、松並木の上から富士山にも、長女文子を殘して、天年の六人。團長は例によつて年長の私。聞くは化の便り、觀るは霞の奥、雲は幻

江戸を發つて京に着く迄

富士は右に仰ぐものと極つてゐるのに、是は又何としたことか、白扇高く左に靡く、松並木の上から富士山

# 寒江雪釣

珠雲　小春藝平

空江雪墓靜無波
停艇寒潭僻杞歌
十文長竿忘寵辱
籠中潑剌巨鱗多

廣告

洋食喫茶宴會
平町
コンパル
電話六六六
毎度有難うございます

素人料理　天下一品
おでん
榮ちやん
平町新田町
電話三三番

前田醫院
共存共榮
簡易
融金
味趣
敬愛
平町
無無
無無
平町

吸入用酸素
純度99%
度量衡
モノサシ
マス
ハカリ
計量器
体温器
寒暖計
關内藥局
電話四〇番
秤ノ取引
糸・修繕
復致シマス

食事、喫茶、酒場を兼ねた
春のサロン
男給の店
平・田町・電三五二

耳鼻咽喉科專門
平町田町(電六九一)
病室完備
自炊ノ便アリ
山内醫院
醫學士山内亨吉

産婦人科
花柳病科
午前宅診
午後往診
入院應需
井坂醫院
平町田町(元合津醫院跡)
電話五五九番

糸イラズ
此の間マネキンの實演を御覽になつて大体は皆様糸イラズの便利經濟なる事がおわかりになりましたでせう、御用の御方は左記販賣店にありますから何卒御便宜の所で御求め下さい。
平町古銀冶町縣社の下
糸イラズ代理店
藥の相談所
阿康藥局
電話四四番
振替口座東京三〇六五
平町田町　阿部藥舗
平町一丁目　水野藥局
平町鎌田町　武子商店
好間村舘荷下　阿部雜貨店
(品切れの際は電話四四番へ)
平町材木町　鈴木商店
平町新川町　清水藥舗
平町仲間町　佐藤商店
好間村元山　福屋

鰹節と干やなぎは
宍戸屋商店
平町西丁目
電話(鹽干部)二一五番
(鮮魚部)四〇七番
日華生命保險株式會社代理店
外務社員募集
(委細面談)

流行ノ下駄ト草履ハ!
ドコヨリ安イ
南町　三井ハキモノ店
(小僧さん入用)
電話一八一番

ぎつねぼ
平町公園下
桑原柔道整骨院
電話六七四

男女入學生服
景品附賣出し
高島屋洋服店
注文並に既製品
平町二丁目電話三八六番

藥品百貨
西村屋藥舗
藥劑士　鈴木堅助
電話三番
振替東京六・二九九
仙臺一・二〇一
福島縣平町二丁目

# 櫻の後を彩って……映ゆるツツジの美

『この十五日頃が見頃に候』と

## 電飾に町役場で宣傳に着手

松ケ岡の春を彩る紅葉ほどに知れ渡つてゐつた電飾も撤廢ないのを遺憾とした平營林署管内の豆腐の哀愁を深はしてゐる平、ジの大增植を圖つた上名勝地には直き背葉と共に訪れる『絶景の春』を天下に紹介する宣傳に積極的に働きかけることになり三十日から數事となつた

日間の豫定で東京營林局風致保主任山内技師を招聘、されて一寸歎樂署長齊藤睦郎氏は今度岩ツ增植ならびに風致區域設定等の計劃を樹立した上名勝

されて一寸歎樂署長齊藤睦郎氏は今度岩ツ增植ならびに風致區域設定等の計劃を樹立した上名勝地には直き背葉と共に訪れる『絶景の春』を天下に紹介する宣傳に積極的に働きかけるツツジはもう所々咲き出したのもあり、この十五日頃が見頃だと云ふので、まだ櫻の後始末も濟まない町役場では細の手入れ等を進める

一方一兩日中には『當町の名物躑躅はいよ／＼今月十日頃から紅黃紫白共妍を競ひ出すものと見られ候へば……』の人寄せ狀を各方面に發送すると云ふ

電飾裝置は目下消防組の手で準備を進め所々見頃と共に約二百個の雪洞と四阿の上に數個の照明燈を點じて一層夜景に精彩を添ねると云ふ寸法

今年は鐵道線路の傾斜面に移植したのも幸ひ咲き出すので旅情を慰めるばかりか宣傳にはもつてこいだと町役場では力んでゐる

## 夏井渓谷の岩躑躅

平營林署で宣傳

磐城耶馬渓の稱ある川前村夏井渓谷の春も四月下旬から五月中旬にかけ奇巖巨木の間に點綴して咲く岩ツ、ジによつて綸爛と彩られる艶麗な淡紅色の花が滝列な渓流に映ゆる絶景は全國にも稀れな『天然の美』といはれてゐるが一般には餘繁

# 流線型機關車

## 愈よ來四日試運轉

近く常磐線にデヴュー

さる十七日常磐線に配給された○五五型流線型機關車は水戸機關庫で檢査中の處いよ／＼四日水戸—平間・五日水戸—上野間で本格的の試運轉を行ふ事になつたこのため東京鐵道局の工作

運轉工務の各課から技師が出張し客車一輛を連結して行ふが兎角右機關車は幅が廣くホームに接觸する虞があるといふので極力この點に付審査する筈である

# 青年學校視學委員任命

## 郡下の擔當區きまる

今回新たに設けられた青年學校視學委員制度は時局に鑑み青年學校教育の振興發達をはかるためその實情を一年必ず一回以上巡回視察して適切の指導をなしその使命を達成せしむる事になり縣ではこれが委員二十七氏を依囑したが本郡關係は左の七氏、擔當學校も決定した

△及川彌平（男師校長）修身公民普通科—內郷鑛業、同家政、好間第一、同第二、神谷、草野、大浦、大野、平窪、小川、川前、桶賣

△近藤節太郎（福島商業校長）修身公民職業科—平工四百五十名の就職斡旋は既報の如く縣內では殆ど絶多實科、飯野、藤原、湯本實業、箕輪第一、同第二、合戸、渡戸、永井

△中山琢三（水産試驗場長）職業科水産—豊間、江名小名濱、四倉

△佐藤弘毅（相馬農蠶校長）職業科—私立鮫南實務女私立鮫南中堅

△內村理（磐城高女教諭）家事科—夏井、高久、鹿島玉川、磐崎、赤井第一、同第二、澤渡、上三坂、下三坂、左鹽、中三坂、山田、錦、植田、入遠野上遠野、川部、田人、私立平陽

△佐藤せき（女師校教諭）家事裁縫科—泉、渡邊、菊多、勿來、飯野、江名、小名濱、湯本、內郷家政女、四倉、豊間

## 平町赤ちやん大會

平町全國乳兒愛護週間中の催しである赤ちやん大會は明二日午後一時から藤田女學校で催されるが今一日午前中の申込八十五名で百名突破の盛況を豫想されてゐる

# 開設初年度丈けに不振の永戸國營獵區

## 平營林署宣傳に意氣込む

昨年十一月大衆獵區をモットーに開設した平營林署永戸國營獵區は去る十五日狩りで見せると營林署當局では意氣込んでゐるが獵禁止期とゝもに閉場したが誕生第一年度の成績は入場者延人員三四名△總入場料一、〇二四圓（一日一人三圓）△捕獲總數雉二一、山鳥三七、兎二山鴨一（計六一）

でまだ世に知られて居ない身許不明、昭和人絹の食勞少であつたが同獵區の鳥獸繁殖は目覺ましいものがあの

# 川岸に死体

## 人絹の職工か

箕輪村大利大和田熊吉方附近の川岸に三十日夜六時頃三十前後の男の變死体ある邦藏（三五）は三十日午後三時ゆ發見、平署で檢視したが半頃月末の集金に出た足で主人の取引銀行である常陽銀行支店から預金八百五十圓を引出し賣溜金其他一千百餘圓を拐帶逃走したので届け出により目下平署で行方捜査中であるが、同人は毎月の給料を貰ひ主家名義で八百圓位の預金があつたそうである

# 第三遠足運動

平第二、第三兩小學校では今一日各々左記方面に遠足を行つた

〔第二〕尋一—飯野村白土八幡宮　二—同　三—神谷村澤村神社　四—草野村花園神社　五—好間村上野原　六—赤井嶽常福寺　高一—四倉波立藥師　二—小名濱町（築港、測候所、鑛山工場見學）

〔第三〕尋一—松ケ岡公園　二—夏井村如來寺　三—內郷村白水阿彌陀堂　四—草野村新舞子　五—赤井嶽　六—豊間村鹽屋崎燈台

# 破戒僧檢擧

## 懐中時計等を盗む

湯本町僧侶赤川正司（二五）は二十九日午後三時頃田村郡嚴江村字横川橋本秀吉方から懐中時計、金鎖百五十圓その他を窃取逃走、郡山開成山廣場で遊んでゐる處を郡山署員に檢擧

# 大金を拐帶して會計係りドロン

## 平署で行方嚴探中

平町四丁目丸トモ食堂の會計係りが各小學校では新設校の學級編成の必要から當局の照會に基き四月三十日現在に於ける左記町區の通學兒童數その他を調査した

# 關西地方——の工場は東北人が嫌ひ

## 昭和人絹の失業男工やつと百四十名斡旋

錦村昭和人絹會社の失業男工四百五十名の就職斡旋は既報の如く縣內では殆ど絶望視されたので四家平職業紹介所長は去月二十一日來東京、名古屋、岡崎、奈良大阪、岡山、大津、靜岡、岐阜の關西方面に於ける工場を歴訪極力賣り込みに努めた結果

岡崎四〇名　岐阜西大垣四〇名　京都宇治三〇名　大津一〇名

を筆頭に合計百四十名を決定、昨三十日歸郷し更に殘る三百名の斡旋に奔走する事となつたが、右につき所長は語る

何處へ行つても東北人は嫌ひなやうだ、殊に解雇職工だと云ふので受けが惡く極力事情をのべてやつとこれ丈け無理押しにきめて來た、關西方面は物價が高い丈けに賃銀も初任給がこちらより十錢も高い六十錢だから人絹の復興迄には大分救はれるわけだ、直に第二段の四俵、前回の十一圓六十六對策で殘り組の賣り込み錢から十錢高を豫想されて着手する心算です

## 米價騰る？

けふ俵米定期共販

石城販聯の俵米定期共販は今一日午後から行はれたが出荷左の如く合計八百二十

平四三　草野農會五〇
鹿島三三　飯野五七　夏井六六　勿來〇六　草野信用三一　小川五〇
大野　二四　平窪五一
神谷八〇　高久三二

# 戀し女の跡を慕ひ

## 青年坑夫服毒自殺

未遂

金に窮しての狂言か

湯本町三函八右衛門長男坑夫佐藤市藏（二五）は二十九日夜自宅でカルモチンを嚥下苦悶中を家人に發見され手當て中だが生命危篤

同人は昨年七月から横須賀市田浦仲町通り宗太郎三女伴キミコ（二三）と戀仲に陷り女と共に親許にゐたが昨年十二月キミは父危篤の電報で歸郷したので市藏はキミコ戀しさの餘りその跡を慕つて行かうにも旅費はなく親戚にせがんだがこれ亦拒まれたので面當ての狂言自殺を圖つたものらしい

傳貧馬撲殺　石城産馬産組合では此程傳貧馬の檢

# 俺は檢事だぞ？

## 遊んだ揚句金に窮し

書記ドノ失敗の巻

平町紺屋町一七平公證役場書記水竹七郎（三〇）は三十日午十時頃無一文で湯本町笠井三科理業備藥亭事齋田辰三郎方に登樓ドンチャン騒ぎをやらかしていざ勘定となると

『俺は最近福岡から來た檢事だがいま駐在巡査も御馳走して來たからそこで拂ふから』

と主人を附け馬に同町三函

# 晩秋の關西から

## 磐女見學旅行團

—第四信—

### 雨の京都を巡る

京都見學。憧れの古都京都の市內見學が今日の日程であつた。午前十時頃例に漏れず雨の土砂降りに閉口した

市內の川は早くも水量を增し中には土間の水を金盥に汲み出してゐる所も見受けたのである。

東京と見まがふ盛場もなく、のんびりしてゐる京都の特色であらう

—第五信—

### 靈峰富士の印象

今日は懐しい京都に別れを告げる。我家を懐しむ心と未だ旅行を續け度いと言ふ交錯した氣持を抱いて乘車する

近江の琵琶湖の水は淒い程蒼かつた。又靈峰富士の中腹には一條の白雲がかゝり、頂上は雪で白く覆はれてゐた。そして裾野は何處迄も／＼擴がつて居た女性的な細い線で表はされた富士！眼底深くやきつけられた其の姿。何となく拜み度いやうな氣持になる

午後五時三十二分に熱海に着く。海の色の美しいこと！、何と形容したならあの美しさを表現出來るかしら

—第六信—

### 懐古の鎌倉見學

四時に起床、睡い眼で熱海の海の彼方を眺めると真黑い山の丁度中程に點々と玉を連ねたやうに美しく電燈が點せられて居り、そして未だ明けやらぬ海上に

みやびやかな此處の風習所謂京都風を此の上もなく好ましいものに思つた

その間にも雨の勢は益々激しくなり下車見學の度に其の土砂降りには閉口した

程蒼かつた。又靈峰富士の中腹には一條の白雲がかゝり、頂上は雪で白く覆はれてゐた。そして裾野は何處迄も／＼擴がつて居た女性的な細い線で表はされた富

去り難い此の地を發し次に鎌倉を見學する。見る物聞く事ゝすべて私達の心を打つたが殊に英雄頼朝の墓の粗末で苔蒸して居た事と大塔宮が逆臣足利氏の爲九ケ月間幽閉せられたと傳へられる土牢を拜見した時は全く胸がしめつけられるやうに思はれた

# 天氣豫報

小名濱測候所觀測

今晩は北西の風晴一時曇、明日は北西の風晴時々曇

# 艷罪黑白

『……』なつて居るのが新田町丈けでも甲、ナツ、丙。人氣商賣の故を以て例により名前をおゝ

◇花も慌しく散り去つた、そして踊りの疲れの專で思ひ出したが、自分がプレート（立つ

來たのが天地濟明の五月かれ◇燕は町に可れんな巣を營む。『アタシも早く家を持ち度い

新田町の目ぬき（繁華『繁昌を生ぜぬ程度に お客んなさい』なんて云つてるかどうか◇近頃新田町の便所がうすくなつたと平窓のあんちゃんが遺憾したさうな、まさかシーズン來るなんてきれい處が殘

いもから、みつ豆に輕向し、おなかを壞した結果でも御座んすまい

新町　長橋町　材木町
鍛冶町　堂の前　中町
十五丁目　南町　童子町

不注意運公に廿圓。四倉町原田自動車運轉手緒形與平（三三）は一月二十八日午前十時半頃乘合自動車を運轉して同町中町地內國道を疾走中、不注意から徒步で並行してゐた同町門馬丑松（五八）に衝突、翌八日の打撲傷を與へたが此程平區から略式罰金三十圓

診を行つた結果三阪村國分庇四郎氏所有馬（三才）が眞性と判明撲殺處分に附した

尙今月中の檢診日割左の如し

七、八日澤渡　九、十日永戸　十一、十二日箕輪

# 列車犯人に即決

懲役一年

けふ平區の判決

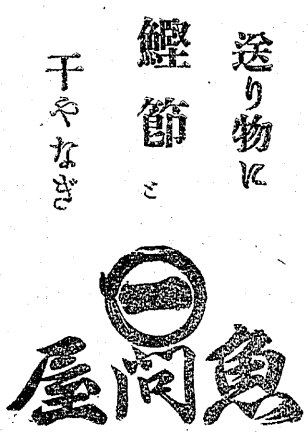
運行中の列車からドシヤ降りの線路に飛び下り逃走捕はれた內郷村高坂字ウ野五七居住農間村招之內字新街生れ鈴木勝吉（二〇）假名—並に年下の勝吉に操られた內郷村宮字宮澤西白河郡生れ箱崎一郎（二四）兩名が平町天下堂、鶴屋、ふじや等から十數回に亘り窃盗を働いた事件の公判は今一日平區で野木判事係り氏家檢事關與弟廷、勝吉は二年、一郎は

# 菅波忠治翁

## 元內郷村長

菅波忠治翁は豫て病氣の處藥石効無く一昨廿九日午前九時永眠、葬儀は三日午後二時出棺性濟院に於て執行するど

# 送り物に鰹節と干やなぎ

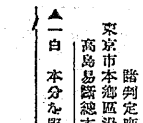



平町四丁目電話二一三

平町三丁目　電話一七七番

磐城代表的の土産品
山。靈峰羊羹　里。柿羊羹
海。のり羊羹　各一本　金十錢
右美麗二本箱入特價三十錢
御旅のお出入に便宜な手頃のお土産品です
小賣御希望の方お申越下さい。
小川郷驛前
製造發賣元　平屋賣店

荆妻コト儀病氣の處三十日午前九時二十分死去仕候
追て葬儀は五月二日午後二時自宅出棺佛式により長源寺に於て告別式相營み申可く候
四月三十日
平町胡摩澤
男　花澤久一郎
外親戚一同



諸例定應需
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部　神戒館
▲一白　本分を堅くやりてうきつ

廣告

松村醫院
院長　松村鐵郎
平町南町電一〇七


二日
日出　四、四五　月出後　二、三三
日没　六、二四　月没前　二、〇五
滿潮前後　一、〇〇　一、三〇　干潮前七、五五　後七、三五

▲六白　運氣良好にして靡碎あり金談纏組何れも吉▲九紫　思のみ大にして力の足らざるか如し平穏吉

かゝが安全飲食注意▲二黑　氣力内に滿ちて萬事通達すべき吉日▲三碧　元氣に任す時は不利に陷る事あり注意日▲四綠　進む事のみ考へて跡を見ざる爲失敗ある日▲五黃　寛容にして萬事を行へば發達すべき吉日▲六白　線がいに周せず突破心を振ひ起して進むが吉▲七赤　花の盛りは過ぎたれど實を結ぶ樂みある日▲八白　運氣良好にして靡碎あり金談纏組何れも吉▲九紫　思のみ大にして力の足らざるか如し平穏吉

や『俺は中央大學を出てゐるんだからそんな眞似はしないぞ』と喧つてかゝつたので直に平署の豚箱入り—